



八千代オイコス かわら版

第41号

令和元年9月15日発行

NPO 法人八千代オイコス

<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



川の学校 in 花輪川 開催しました！

川で遊び川から学ぶことを通して、自然環境への興味を持って欲しいとオイコス恒例の「川の学校 in 花輪川」を8月4日（日）9時～13時、開催しました。今年は、昨年までの2日間のプログラムを、1日コースを2回（7/28と8/4）開催し、八千代市内の小学3年生以上を対象に募集しました。申し込みも多く、オイコスメンバーは準備を進めていましたが、なんと7月28日は大雨の影響でやむなく中止となりました。

8月4日はお天気も良く、暑い中、総勢57名（小学生30名）が花輪川で、活動しました。緑ヶ丘駅から花輪川まで歩き、湧水、田んぼ、カエルなど見ながら花輪川の水の量が増えているのを体感し、花輪川の土橋に着きます。

生き物探しは、網の使い方、仲間と追い込むなど講師の説明を聞き、6人5グループごとに網を持ち川に入り生き物を探します。

恐る恐る川に入って行く姿が、いつの間にか網使いもうまくなり、子ども達の生き生きした顔と笑顔が見られました。メダカが多くいたこと、中でも、タイコウチ、コオイムシが見られたことは、今年のヒットでした。ボランティアスタッフとして、八千代東高校の生徒さんやボーイスカウトの方の協力もいただきました。高校生からは、子ども達とのふれあい、サポートの仕方など良い体験でした！と感想をいただきました。



川の大切さ

小学5年 吉岡 翼

ぼくが川の学校に参加するのは2回目です。3年生の時に参加して楽しかったからです。

集合場所の緑が丘駅から花輪川に行く途中で、トンボ・チョウ・バッタ・カエルを見つけました。アオサギも飛んでいました。

川では、先生や班のみんなで協力して川の生き物を追い込んで、ザリガニ・メダカ・コオイムシをつかまえました。

花輪川の水はとてもきれいだから、生き物の良いすみかになっているのだと教えてもらいました。川の水を汚さないように、僕たちが守っていかなくてはいけないと思いました。そして、もっといろんな生き物がすめる川にして、こんな場所がどこにでもあればいいなと思いました。

川の学校に行ってみて

小学3年 兵藤 奏来

僕は生き物が好きです。特に水の生き物が好きです。公園では魚を捕まえたことがありますが、自然の川で捕まえたことはありませんでしたので、今回はとても楽しみでした。

集合場所はイオンで、そこから歩いていきましたが、最初は川もなくとても心配でした。しばらく歩いていくと花輪川にようやく着きました。着いたころにはもうへとへとでした。

最初は本当にこの川に生き物などがたくさんいるとは思いませんでした。でも教えてもらったように網ですくってみるとザリガニとかメダカとか違う特徴を持った生物がいっぱい取れました。初めて見た生き物も取れました。その生物の名前の由来とかをオイコスの人が教えてくれたりしました。どろどろのところでおもいきり2回も転んでしまいました。

花輪川には魚など水中に住んでる生物の他にも陸などで暮らす生物もたくさんいて楽しかったです。家の近くにもこんな場所があったらいいなと思いました。

川の学校に行ってみて、他の生物の特徴や名前などをたくさん調べたり覚えたりしたいと思いました。



川の学校に参加してみて

小学3年 山内 貴裕

駅から川まで歩いた時は暑かったけど、川の水はひんやりしていてとても気持ちよかったです。ザリガニやメダカなど生き物がたくさんいてびっくりしました。まわりの子はさわったりつかまえたりしていたけど、ぼくはこわくてさわれませんでした。来年はぼくもザリガニをつかまえてもっと近くで観察できるようにがんばろうと思いました。



川の学校 ボランティア体験記

本郷美結さん(八千代東高校2年女子)

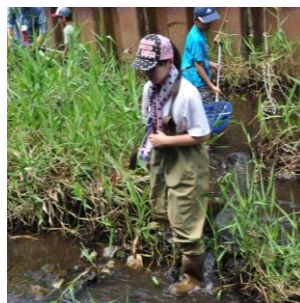
先日は大変貴重な体験をさせて頂いてありがとうございました。普段、関わる事があまりない小学生と体験して楽しかったです。小さい頃ならではの発想が出てきたり、1つのことに夢中になることだったり、忘れていたことが沢山あってとても新鮮でした。皆元気で気軽に話しかけてくれて久しぶりに外で遊ぶことの大切さに気が付けた気がします。またこのような機会があったらお手伝いをしながら小学生と関わりたいなと思いました。

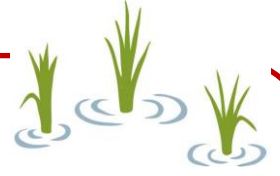
中井希海さん(八千代東高校2年女子)

川遊びをするという体験は初めてではなかったけど、地元の川にいる生き物を自分たちで探し、掴まえる。ということをして沢山の小学生と触れ合いながら出来たのはとてもいい経験になりました。今回のボランティアで、もっと川を、自然を大事にしていきたいと思いました。

藤田涼大さん(八千代東高校1年男子)

当日は猛暑の中でしたが、多くの子供達が楽しんでくれて、自分も楽しかったです。子供達が今どのような生き物に興味があるのか知ることができてよかったです。





米づくり体験のこれまで

今年の米づくりは心配しました。田植えを5月に行って、6月の草取り、7月の草取りと順調に進み、雑草も昨年より少なく順調に思えましたが、梅雨に入り温度が上がらず、7月にはガラガラした太陽も顔を出さず、8月まで梅雨が長引き、日照不足で米が出来るのか気をもみました。周りの畑の野菜も育ちが悪く、このままだと穂が出ないで皆さんの努力が実らないかとも思いましたが、8月に入り太陽も出て一気に気温も上がり、今までの不足分を補ってくれています。農家の山崎さんに聞くとちょっと遅れ気味になるのでは、と言う程度で収まるそうです。何回か田んぼを覗いて、8月の初めに稲穂が出て小さな花が咲き、9月の半ばには稲穂が垂れるまでに成長する時間の短さを感じ、土・水・太陽の偉大さを再確認させられました。(2019/8)

(オイコススタッフ 金室 彰)

米作り体験 2019年～田植え～

宮本 和彦

お米作り参加申し込んだからと言われハテナ(?)で始まった今回の体験。

4月に説明会に参加し準備に数件のホームセンターをはしごする等してあつという間に5月6日の田植え当日を迎える事となりました。当日は暑くもなく作業には丁度良い天候に恵まれ多くの参加者の一員として、年長の娘と一緒に参加しました。

見るのとやるのとでは大違いで、田んぼに入るのが初めての二人。歩くにも一苦労し、やっと所定の場所に到着、田植えが始まりました。悪戦苦闘しながらも何とか無事田植えも終わり貴重な体験が終了しました。

これから数か月後、結果となってあらわれるのが楽しみです。今回の米作り。先日行われた草取りをはじめ、地味な作業の積み重ねが収穫につながると思うと、改めて、全ての工程に意味があり農業に携わっている方々に感謝して日々の食事を美味しく頂きたいと思いました。

小雨が降り出す前の14:30に後片付け含め計画通り全ての作業を終了しました。

一年間お疲れ様でした。来年も良い年であります様に！

米づくり体験 ～田植え～

前川 末雄

八千代オイコスメンバーの方から米づくり体験の誘いが有り一度は経験したいと思い参加を希望しました。

東京神田で生まれ育ち田んぼや畑には縁が有りませんでした。32年前八千代に引っ越してきました。近所の畑を借りて家庭菜園を始め、先輩方々から教えを受けながら今日迄続けています。が、米づくりは別物 どうなる事やら？

5月6日、「田植え」島田谷津の田んぼに到着、参加者の中に親子づれの方も多く見ているだけで楽しくなります。

田植えの指導を(山崎氏)より受け、初めて田んぼの中に足を入れました。が、足が抜けない悪戦苦闘しながらなんとか植える場所迄前進、参加者横一列に並び両端からロープを張り苗を植えていきました。一歩後退これが中々難しい。それでも五列・六列と植えていくと足の運びが良くなり周りを見られるようになりました。

田植え終了、田んぼから上がり子供達も泥んこになりながらも弱音も言わず頑張って感心しました。手足を洗ってお弁当の時間植えた田んぼを見ながら参加者全員で食べるお弁当は美味かった。

これからの苗の成長が楽しみです。

米づくり体験～田の草取り～

森田 敬

米づくりは全くの素人で、先日（5月6日）専門家の皆さんに田植え作業を教えてもらいながら作業をしました。その2か月後、成長した稲を見て感動し、今日は田の中の草取りということです。

心配された雨も草取りの作業中は降らず、神様は一生懸命やっている小学生はじめ、我々全くの素人に味方してくれたのでしょう。

田植えの時と違い、田の中の水が少ないのだが、土に足がのめり込む感じ、ズブズブと底なし沼に足を取られる感じでした。

今年は日照時間があまりなく、気温が例年より低いことが、お米にどのように影響するのか、ということが気がかりです。しかし、一定以上の気温が5日以上続けば心配ないようです。早い天候回復を願って、9月15日の稲刈り、稲架架けを楽しみにしています。



今年の田んぼ～田の草取り～

田中 秀幸

7月15日、小雨の降るあいにくの天気の中、田んぼの草取りが始まった。

今年は長雨で日照不足の日が多く、稲の成長が心配だったが、5月の田植えからの2ヶ月で、稲は大人のひざまで成長していた。

私達家族は、去年もこの活動に参加させていただいていたのだが、去年に比べて今年は、雑草があまり伸びていなく、量もすごく少なくて、アツという間に終わってしまった。

田んぼの中には、カエル、バッタ、くも等の色々な生き物が暮らしていたのだが、やはり去年と比べると少なく思えた。

今年の稲は、今後どう成長していくのかと不安を感じる草取りでした。



米づくり体験～自然観察会～

5月の田植、二回の草取りを経て、8月になると稲も穂が出て、田んぼに入れなくなります。

この時期、昨年に引き続き、「むつみの森」をお借りしての自然観察会を、8月11日（日）に行いました。連日の猛暑で、暑さが心配されましたが、幸い雲が多く日差しも弱く、また、微風もある絶好の日和となりました。

まず、里山むつみ隊の方から、森の樹叢・野草の植生や、手入れの経過をお話いただき、森の中を案内していただきました。

それから、今日のメインイベントの「竹トンボ」作りに、親子が挑戦。大土講師の指導の下、竹を削り、バランスを考えてカッターを動かし、完成→飛ばす→手直しの繰り返しで、見事にトンボが空を飛びました。

おなかも空いてきて、昼食タイム。子供たちは昼食もそこそこに、木に吊るしたロープでターザンごっこに夢中。勇敢な女の子もいて、男子顔負け。スタッフが畑で生育させたスイカを井戸水で冷やして、みんなで水分補給。

森の中で日常を忘れて遊んだ半日、夏休みのよい思い出になったことでしょう。

(オイコススタッフ 小林 和幸)

むつみのもりのこと

しょうがく1ねん えもと たくみ
むつみのもりにいきました。とうちゃくしたとき、こんなにきがいっぱいあるなら、いっぱいむしがいるんだなとおもいました。

もりのなかをあるいたら、こうえんではみないようなむしをみました。あしがながくて、ふわふわの、うちゅうじんみたいなくもがいました。

かぶとむしもみつけました。おおきくて、からだのちからがつよいかぶとむしです。みつけたときは、でっかいかぶとむしだ！とおもいました。そしてそのときとてもうれしくて、やったーとおもいました。

おとうさんとたけをけずって、たけとんぼをつくりました。たけをけずるのはむずかしいとおもいました。ぼくはひだりききなので、けずるのがはんたいで、むずかしかったです。できあがって、すこしまわったときはうれしかったです。

ぼくのすんでいるちかくにむしのすみかがあって、うれしいとおもいました。

しぜんかんさつかいについて

しょうがく1ねん 山室 歩睦
今日のはうぎょうこうりゅうセンターから、すこし車にのって、「むつみの森」というのはじめての森につれていってもらいました。木がたくさんあって、すごくすずしい森。虫がたくさんいそうで、とてもわくわくしました。

森のなかをみんなであるきました。大人の人たちは木や草をみてたけど、ぼくは虫をさがすのにむちゅうでした。お友だちはカブトムシをみつけて、すごくうらやましかったです。

木の上からロープをたらしてターザンをしました。1人ではロープにうまくのれなかったけど、オイコスの人たちにてつだってもらえて、とてもうれしくてたのしかったです。

竹とんぼづくりは、カッターがうまくつかえず、ぼくにはとてもむずかしかったです。先生が見つけた竹とんぼをとばしてあそんでたのしかったです。



写真提供：黒川 正敏氏

ホタル観賞会、参加者50人で楽しむ

今年のオイコス恒例の「ホタル観賞会」は8月3日（土）に開催しました。

市内に棲息する貴重なヘイケボタルは、今年も数多く幻想的な光を点滅し参加の皆さんを楽しませてくれました。このホタル、世界にはおよそ4000種、日本国内だけでも40～50種類もいると言われています。

ところで美しい光で人を魅了するホタルにも、明滅する周期に「関東型」と「関西型」があって関東地方は4秒に1回、関西地方は2秒に1回の発光周期で点滅していることご存知ですか。「関西型」ややせっかちなものかもしれません。

日本人のホタルへの想いは古く、万葉集にも詠われています。環境の悪化により、この八千代市内の片隅でいつまで私達を楽しませてくれるか、悩ましい現実です。

かつて私が経験したマレーシアへのホタル・ツアーに参加して、大きな樹々に無数のホタルがクリスマスツリーの状態で発光していた景観は一生忘れられない思い出です。昔は日本国内でもそんな光景が観られた事あったのでしょうか。

ホタルの光は私たち人間環境配慮のリトマス試験紙とも言われています。せめても、今ある環境は何時までも残していきたいものです。

(八千代オイコススタッフ 川瀬 純一)

豊かな自然、いつまでも

榎野 久美子

八月三日『ホタル観賞会』に、私と小三の息子の二人で参加させていただきました。息子が幼いころ、地方に住んでいたのでホタルを観たことはあったのですが「もう、覚えていない」と言うので、もう一度ぜひ、みせてあげたいと思っていました。

集合場所から、風光明媚な畑の間を抜けて、石神谷津の田んぼの側道を奥に進んで行くと、だんだんと日が暮れて暗くなってきました。

「あ！いた、いた」どこからか声が上がり、稲穂の辺りがポワッと光ると、そこから、あちらこちらでホタルの光が明滅し始めました。

「こっちにもいた！」静かにしていた息子も興奮して声を上げ、フワリ飛んできたホタルに「こっちおいで、こっち、こっち」と声をかけたり、夢中でホタルを探していました。

帰り道、息子が明るい声で「ホタル、きれいだったね！」と嬉しそうに言いました。

観賞できたホタルは、恐らく十～二十匹ほどだと思うのですが、多い時には百匹ほどのホタルが観られることもあるとか。

家の近くに、こんな美しい自然が残っていたことに驚き、感動の発見でした。八千代の自然を子供たちに伝え、残していきたいと思いました。また、来年が楽しみです。

八千代には人が入れる川、花輪川があります。その川や、まわりの自然を好きになるには、川をきれいにし、魚や水生昆虫、植物が住める環境づくりが大切です。オイコス活動のメインステージの花輪川の流れをスムーズにするため、毎月第2日曜日に川作業をしています。暖かい時期は、川の岸辺の蘆や雑草等の草刈り、遊歩道脇の花壇に緑化公社より分けていただいたサルビア苗の移植、特に夏期は川の学校で子供達が川に入るの、川の清掃、危険物除去、活動域の縄張り等環境整備をします。冬期は遊歩道や川辺の枯れ木や枯れ草、瓶、缶、生活廃棄物の収集、また、緑化公社よりのパンジー苗の移植等をしています。

川は生きており、大雨の時は川いっぱいになり水が流れ、川の中やまわりの草木や土砂を下流に流して綺麗にし、水が少ない時は川底に苔がで、川面には汚染物や廃液が淀んで水環境が悪くなります。それに一喜一憂しながら、希少な魚や水生昆虫、清流の水草が豊富になるよう、川作業の内容、充実に取り組んでいきたいと思っています。

(オイコススタッフ 新谷 啓一)



令和サルビアライン

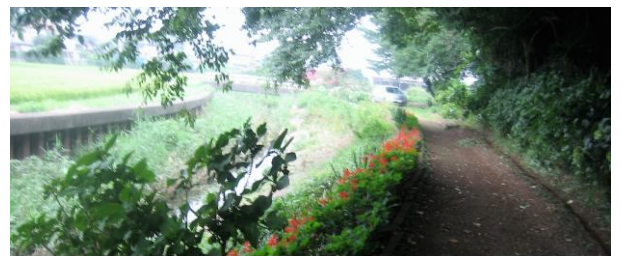
オイコスでは毎年6月にサルビアの植え付けをしています。お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、この3年間は植え付けの状態を変化させています。平成29年は、土橋（下流側の橋）側に4~5列に植えました。植えてしばらくたつと一斉に開花し見事でしたが、そのうちに雑草が被さるほどに育ち、殆どサルビアが見えなくなりました。

平成30年は、花壇の雑草を根から掘り起し、花壇の川側には菊や菖蒲を植え、花壇の遊歩道側に毎年植え替える草花用のスペースを空けて6月にサルビアを植えました。土橋からベンチまで2列に連続したサルビアの花は壮観でしたが、あいにくに日照りで日当たりのよい土橋側は大半が枯れてしまいました。それでも日陰のサルビアは見事に開花しました。

そこで令和元年は、日当たりのよすぎる花壇を避け、日陰又は半日陰の道の両側にサルビアを植えました。名付けて令和サルビアラインの完成です。

盛夏には日々草、秋になりますと、彼岸花、玉すだれ、菊と目白押しにフラワーラインが登場しますので、是非お立ち寄りください。

(文・写真 オイコススタッフ 大塚 孝治)



編集後記

これまで2日間をかけて実施してきた川の学校は、今年は1日コースを2回やってみることに。年を追うごとに過酷になる猛暑から、子どもたちの体力等を考えてのTRYでした。ところが、第1回目は昨年同様、台風の接近でやむなく中止。川の中に入っていっぱい魚をつかまえようと楽しみにしていた子どもたちは本当に残念でした。川の整備や安全確認等、周到に準備してきたオイコススタッフもがっかりでした。でも、2回に分けたことで、2回目は青空のもと、無事実施することができました。今年でできなかった子！また、来年チャレンジしましょう！（NONN）



発行責任者：川瀬 純一

問合せ☎：090-8511-3086

mail：info@yachiyo-oikos.jp